

第74期（2023年度）事業の概況

1. 会 員

会員数は、2023年12月31日現在、名誉会員6、個人正会員1,341、団体正会員347（386口）、学生会員202の計1,896であった。理事会及び会員委員会を中心に会員数の増強に努力し、個人正会員76、団体正会員8（8口）、学生会員107の新入会を得たものの、個人正会員120、団体正会員9（10口）、学生会員88の退会があり、前年同期に比べ計27が減少した。

2. 会 計

当初予算の収益は、会員数、新型コロナウイルス感染動向及び景気動向などを考慮し、前年度決算より受取会費46万5,500円減、事業収益106万9,565円減とした。

これに対し受取会費は、前年度決算より48万9,750円減であり、団体正会員、個人正会員のいずれも前年度決算を下回った。また事業収益は、予算を上回り、前年度決算より215万8,645円増となった。学術セミナー事業は予算を上回り、学術講演会事業は、対面開催による行事の活性化により前年度決算を上回った。なお、第148回講演大会では山形県及び米沢観光コンベンション協会から助成を受けた。経常収益計は、9,729万8,196円であった。

一方、費用は、前年度決算に対して824万4,678円増となった。対面開催による活動が拡大したことにより、本部・支部・部会の行事費（会場費及び講演大会懇親会費等）、旅費交通費、印刷製本費が増加した。オンライン費用は前年とほぼ同額を継続して支出した。経常費用計は8,328万2,884円であった。

なお、指定正味財産においては、基盤強化資金より24万3,100円を取り崩し、会員管理システムの初期費用に充てた。

以上のとおり、一般正味財産は1,401万5,312円増、指定正味財産は24万3,100円減となり、正味財産の当年度末残高は1億9,073万8,393円となった。

3. 講演大会等

第147回講演大会（2023年3月7日～8日）は、千葉工業大学 津田沼キャンパスにおいて、新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮した形式で開催した（発表140件、参加登録者412名）。第148回講演大会（2023年9月4日～5日）は、山形大学 米沢キャンパスにおいて山形大学後援のもと開催し、第140回講演大会以降4年ぶりに懇親会と付設展示会を実施した（発表件数143件、参加登録者390名）。

なお、第147回講演大会において「第29回学術奨励講演賞」を10名に授与した。第148回講演大会において「第25回優秀講演賞」3名、「第12回学生優秀講演賞」5名を選考し、第149回講演大会（2024年3月5日～6日）において授与する予定である。

4. 会 誌

12テーマの小特集及び特集を企画し、年間12号の会誌「表面技術」を発刊した。ページ数は総計676ページ、掲載論文は、研究論文12件・技術論文3件・ノート2件・速報論文4件であった。

J-Stage [科学技術情報発信・流通総合システム] には、「表面技術」の前身誌である「金属表面技術」及び「現場パンフレット（後改称：実務表面技術）」の創刊号から第74巻（2023年）6号までを掲載し、研究論文・技術論文・ノート・速報論文については、第74巻12号掲載論文までを掲載した。

5. セミナー

実習セミナーは現地開催、その他のセミナーはオンライン方式で開催した。夏季セミナー“表面処理入門講座（Ⅰ）”（7月4日）、夏季セミナー“表面処理入門講座（Ⅱ）”（7月27日）、夏季実習セミナー“めっき液の分析と管理”（8月30日、於：神奈川大学 横浜キャンパス）、秋季セミナー“難処理材へのめっき技術（Ⅰ）”（9月22日）、秋季セミナー“難処理材へのめっき技術（Ⅱ）”（10月23日）、冬季セミナー“めっき現場における要素技術”（12月4日）、冬季セミナー“研究/技術者のための表面処理基礎講座”（12月20日）を開催した。参加者の合計は295名であった。

6. SURTECH

「SURTECH 2023ー表面技術要素展」は、東京ビッグサイト 東5ホールを会場として開催（2023年2月1日～3日）した。出展社(機関)は、29社/機関、46小間であった。特別企画コンセプトゾーンでは、全国鍍金工業組合連合会に所属するめっき事業所18社による企業展示、日本表面処理機械工業会の3部会によるSDG's及びカーボンニュートラルをテーマとした展示を実施した。来場者は同時開催展示会を含め31,137名であった。

なお、SURTECH 2024 実行委員会では、SURTECH 2024（2024年1月31日～2月2日）開催に向けて、前年に引き続き特別企画コンセプトゾーン等の企画を進めた。

7. 国際交流

Korean Institute of Surface Engineering (KISE) からの要望により、第147回講演大会の会期中（2023年3月8日）に韓国表面工学会 特別講演会を設け、KISE が主催する International Conference on Surface Engineering (ICSE2023) & Regional INTERFINISH 2023 の発表募集に協力した。また、KISE からの要請により、Regional INTERFINISH 2023 において松永会長が本会の活動を紹介した。

8. JIS 規格検討専門委員会

新型コロナウイルスの感染拡大などにより改正作業が遅れている溶融アルミニウムめっき（JIS H 8642：1995）は、原案提出期限（2024年2月29日）に向けて改正作業を進めた。

9. ISO 規格検討専門委員会

国際標準化機構（ISO）のTC 107 部門（金属及び無機質皮膜）の国内審議団体として、特別委員会の中に ISO 規格検討専門委員会（兼務：ISO/TC 107 国内対応委員会）を置き、国際規格の制定などに協力した。また、ISO/TC 107 第36回総会は2024年11月18日～22日に(株)島津製作所 会議室において開催する予定である。

なお、「プラスチック上の金属コーティングのピール強度の温度制御下での試験方法と性能表示法（仮）」の ISO 規格提案を目指し、(株)島津製作所と共同で経済産業省「令和6年度戦略的国際標準化加速事業：産業基盤分野に係る国際標準開発活動」に事業申請を行う予定で準備を始めた。

10. 表彰

協会賞1名、功績賞2名、論文賞1件、技術賞2件、進歩賞2名、技術功労賞6名を表彰した。

11. 表面処理団体協議会（表団協）

本会及び全国鍍金工業組合連合会、日本表面処理機材工業会の3団体で組織する表面処理団体協議会は、運営委員会3回、代表者会議1回を開催した。「SURTECH 2023－表面技術要素展」の会期中（2023年2月3日）に第31回表団協セミナーを開催した。また、産官学合同会議 第21回情報交換会を11月16日にオンラインにて開催した。

なお、SURTECH 2024 会期中（2024年2月2日）に第32回表団協セミナーを開催する予定で準備を進めた。

12. 支 部

北海道・東北・関東・中部・関西・九州の各支部は、それぞれの地域特性及び新型コロナウイルス感染状況に対応した諸活動を行った。また、東北支部は第148回講演大会の成功に貢献した。

13. 部 会

本期に活動している部会は以下のとおりである。

- ① アノード酸化皮膜の機能化部会
- ② ウェットプロセス研究部会
- ③ 環境および機能性に関する塗料部会
- ④ 高機能トライボ表面プロセス部会
- ⑤ 材料機能ドライプロセス部会
- ⑥ 将来めっき技術検討部会
- ⑦ 表協エレクトロニクス部会
- ⑧ 表協青年経営技術懇話会
- ⑨ 表面技術環境部会
- ⑩ 表面技術とものづくり研究部会
- ⑪ ヘテロ界面制御部会
- ⑫ めっき部会
- ⑬ ライトメタル表面技術部会